

## 商 業， 金 融， 家 計

33年の商業調査による県下の商店数は総数32 846で、前回の31年調査時より1 721店舗増加した。(何れも飲食店を除く)。業種別にみると飲食料品小売業が16 493で全店舗の約半数を占め、次いで織物小売業の3 438、卸売業3 253の順である。

32年の県下の貯蓄は目標額200億円に対して実績は170億円、目標達成率85%であった。前年実績にくらべると22億円少く、目標達成率では前年が137%であったので、かなり下廻る結果となった。目標額を越えた機関は相互銀行、生命保険会社、郵便局で、他の銀行、信用金庫の大口のところや農業協同組合は何れも目標に達しなかつた。

千葉市の消費者物価指数はジリ高傾向にあり、32年には103.7(昭和30年平均=100)となった。費目別にみると26年より下つているのは被服費だけで、他の費目は何れも上昇し、特に光熱費の114.4や住居費の115.0が目立つて上つた。

千葉市の32年全世帯平均消費実支出金額は、1カ月23 524円で、26年の約2倍となった。しかしこのうち食料費の占める割合は、26年には59%を占めていたのに対し、32年は46%と下つており、逆に雑費の占める割合が21%から29%にふえ、娯楽費や教育費、保健衛生費の支出が多くなつた。

家計費と物価(千葉市)  
—昭和26年に対する割合—

